

『ドクタークローズアップ』

腫瘍内科 笹木 有佑 科長

## DOCTOR

ドクター  
クローズアップ closeup

函館中央病院腫瘍内科科長

# 笹木 有佑氏



ささき ゆうすけ  
平成19年弘前大学医学部卒業。  
札幌北楡病院、函館中央病院、国立がん研究センター中央病院に勤務。  
平成28年3月順天堂大学大学院医学研究科修了。  
同年4月函館中央病院腫瘍内科科長兼外来化学療法センター長に就任。  
日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。

### 抗がん剤治療の専門医として最善の治療を目指す

### 次々に開発される薬から最も適した組み合わせを選択

昨年4月函館中央病院に新たに開設された腫瘍内科の科長（兼外来化学療法センター長）に就任したのが、がん薬物療法専門医の笹木有佑医師だ。日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医は、質の高いがん薬物療法を実現するために幅広い臓器のがん薬物療法の知識と技術を持った専門医で、この資格を有するのは道南

では笹木医師だけだ。青森市生まれの笹木医師。小学生の時に慕っていた祖母が片目を失明するが、その出来事をきっかけに医師になることを決意、弘前大学医学部へ進学した。「医者になったとき、祖母はとても喜んでくれました」。大学卒業後は消化器内科医を志望し、札幌北楡病院と函館中央病院に4年間勤

務した。「消化器内科では消化器がんの化学療法を行います。どうしても片手間の治療を余儀なくされるので、それであれば自分抗がん剤治療の専門医になろうと考えました」。平成23年から5年間、国立がん研究センター中央病院での臨床と同時に、順天堂大学大学院医学研究科へ進学。抗がん剤の研究で学位を取

得した。函館中央病院では消化器がんの化学療法をほとんど1人で担当している。「がんはその種類や進行度に応じて、手術や放射線治療、薬物療法（抗がん剤）などの様々な治療が必要になります。抗がん剤治療は手術後に行うことで術後の再発を予防したり、手術ができない状態のがんの進行を食い止めたりすることが目的の治療です」。近年は胃がんや大腸がんなど消化器がんが次々に新しい薬が開発されている。

「大腸がんで使用できる抗がん剤は15年前には2、3種類だけでしたが、現在は11種類あります。胃がんも8種類あり、これらの中から個々の患者に最も適した抗がん剤の組み合わせを選ぶためには専門的な知識が求められます」。

笹木医師が担当する患者は、再発や転移など外科的治療が不可能な場合が多い。従来、このような場合の余命は1年以内とされていたが、分子標的治療薬など新しい薬の登場によって、現在では2年半にまで伸びている。「抗がん剤は治療開始直後からのマネージメントが重要です。副作用は辛く苦しいという認識を持つている人も少なくありませんが、最近では吐き気や嘔吐を抑える薬も進化するなど副作用も軽減されて、長く治療を続けることができているようになっていきます」。

笹木医師は「今後も抗がん剤の最新の知識を習得し、質の高い最善の治療を提供できるように努めていきたい」と話している。